

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第216号 2008年4月7日

OCHADAI GAZETTE April, 2008



## お茶の水女子大学の新たな歩み 「お茶大リベラルアーツ」の誕生

### CONTENTS

#### TOPICS

|                        |   |
|------------------------|---|
| PHOTO TOPICS.....      | 1 |
| 新生お茶の水女子大学             |   |
| 2008年度からスタートします.....   | 3 |
| 全学一体となった学部教育.....      | 5 |
| 研究プロジェクトの遂行.....       | 7 |
| 大学院教育改革支援プログラム.....    | 9 |
| 「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」 |   |

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 教員紹介.....                  | 11 |
| 菅原ますみ先生（大学院人間文化創成科学研究科）    |    |
| 平成19年度卒業式.....             | 13 |
| キャンパス点描.....               | 17 |
| 女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム    |    |
| お茶の水女子大学バンコク・オフィスを開設       |    |
| イベントカレンダー（2008年度）.....     | 19 |
| 研究表彰・叙勲 受賞者一覧（2007年度）..... | 20 |
| メディア報道記録（2007年度）.....      | 21 |



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University



新入生の皆さん、  
ご入学おめでとうございます。  
お茶の水女子大学へようこそ。

CONGRATULATIONS!

CONGRATULATIONS!



# 新生お茶の水女子大学

## 2008年度からスタートします

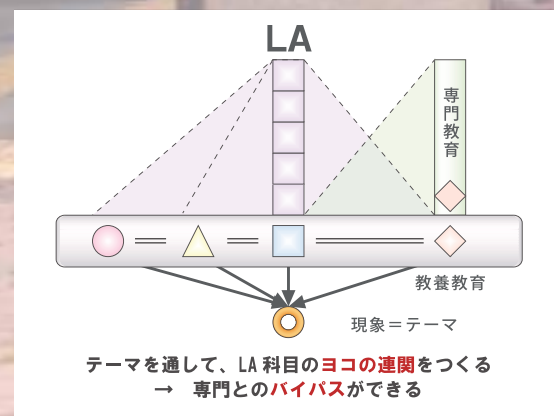
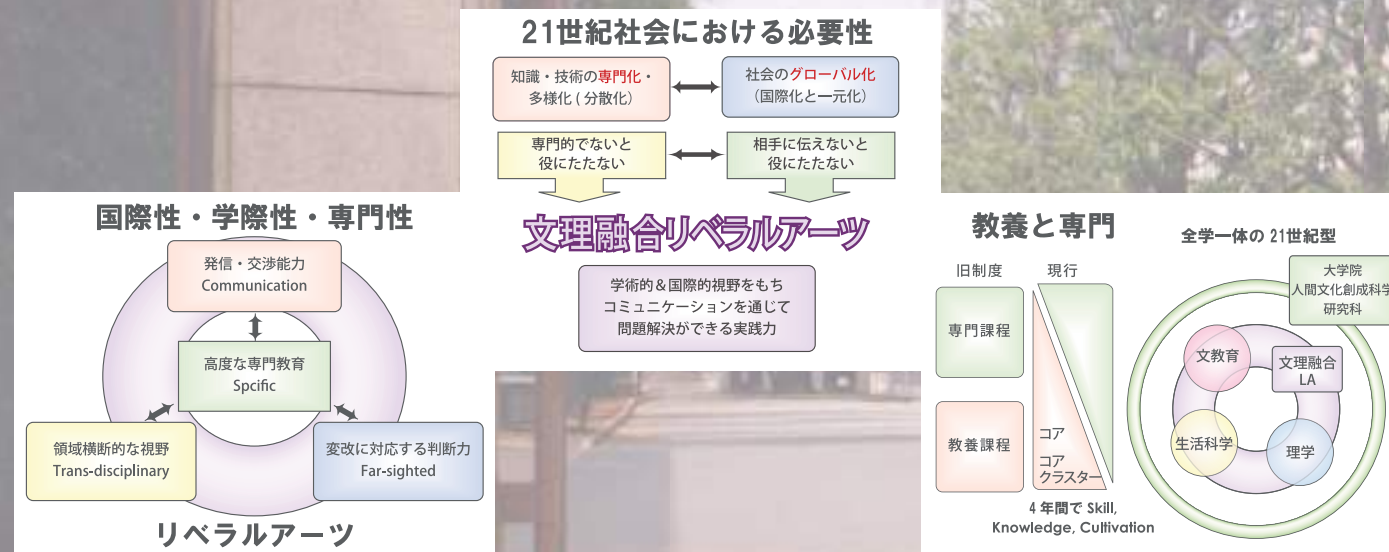
### 教養教育からリベラルアーツへ

平成20年度（2008年4月）から、従来の教養教育を改革し、21世紀型リベラルアーツを始動します。  
お茶の水女子大学は、すべての女性の真摯な夢の実現される場であること、教養知と専門知、学術知と実践知を兼ね備えた女性が、21世紀に羽ばたくことを大学の目標として掲げています。  
社会人としての基礎力とともに、知的な自由さをもった女性。それを創るのが、リベラルアーツです。

### お茶大から世界に発信する21世紀型リベラルアーツ

21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が平行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役にたちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。  
これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能

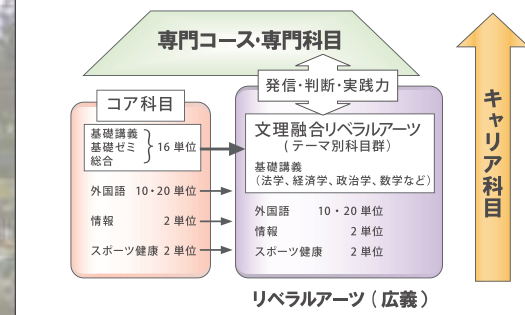
力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。  
知識そのものの基礎であり、生涯をととして、自在に（リベラル）つかえる技（アーツ）を学ぶことが、「21世紀型リベラルアーツ」の目的です。



### 文理を融合した学びを

わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術というナイフで、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要になっています。文系の人間にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育（リベラルアーツ）の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

### カリキュラムの3つの柱 リベラルアーツ・専門・キャリア



### 現代世界の鍵となる5つのテーマ

新プログラム「文理融合型リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ（生活世界の安全保障、色・音・香、生命と環境、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。演習・実験・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生命と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験や色や香りを分析する実験を行うことで、自然の仕組みを体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。  
いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解します。学生は、いずれかのひとつのテーマ（系列）を選び、学びます。20年度は、「生命と環境」「生活世界の安全保障」「色・音・香」の3つの系列がスタートします。

文系理系にまたがる5つのテーマ

- ・生活世界の安全保障（平成20年度開講）
- ・色・音・香（平成20年度開講）
- ・生命と環境（平成20年度開講）
- ・ことばと世界（平成21年度開講）
- ・ジェンダー（平成21年度開講）

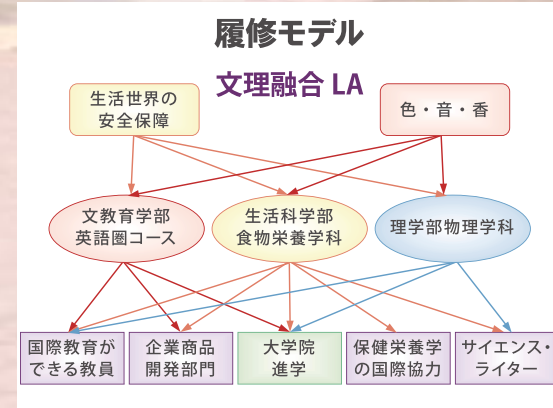
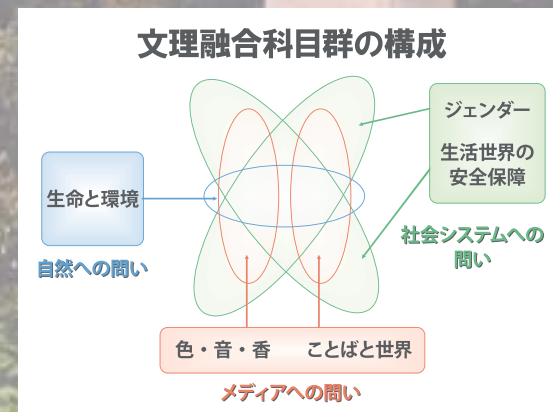
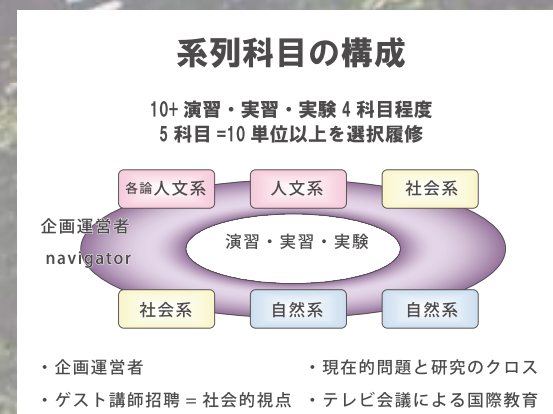
にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。

### 専門力を生かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学1～2年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力を生かした多様な進路が切り拓かれます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史（成り立ち）から理解すること、表現の意味を考えること。それらは相互に結びついて、わたしたちのものの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する困難を突破する力を与えてくれます。ひとりひとりが生涯にわたって生き生きと生きていくための「お茶大リベラルアーツ」の誕生です。

文理融合リベラルアーツの科目群は、現行のコア科目（基礎講義・基礎ゼミ）、全学共通科目のコア・クラスターを発展させたものです。20年度以降の新入生だけでなく、在学生も履修できます。



# 新生お茶の水女子大学

## 全学一体となった学部教育

### 科学的思考力と表現力を育成するキャリア教育

（現代GP採択「科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』」、平成19-21年度）

「表現力」と「科学的思考力」の強化が、本キャリア教育の車の両輪となります。これら2つの力を伸ばすために、キャリア関連の新規授業（「キャリア・プランニング」「サイエンス・ライティング」など）を開講します。さらに、「キャリアレポート放送局」と「キャリアカフェ」が普段の授業の効果を倍増させます。

「キャリアレポート放送局」は、新しいコンセプトのネット環境であり、学生は「私の履歴書コーナー」に、さまざまな授業の成果物であるレポートを格納し、「自分史」を作り上げています。

キャリアカフェを図書館1階に開き、学生主導で運営し、キャリアセミナーやキャリアメンターとの座談会などを企画・実施します。

これらの取組で、本事業の目標とする学生像、すなわち1年次から積極的に自己の未来を考察し、それに向けて行動する学生、そして卒業時には科学的思考力と表現力を持ち、それぞれの分野のリーダーとして活躍できる社会人、の実現を目指します。

詳しくは、HPをご覧ください。

URL：<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/>

お茶の水女子大学 現代GP

**キャリアレポート放送局**

**プロジェクト**



キャリアレポート放送局と キャリアカフェで  
自己表現力を研鑽

知らなかった私、発見。

本プロジェクトは、平成19年度 文部科学省 大学教育改革推進「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の取組テーマ「[実証的キャリア教育の推進]」として採択され、お茶の水女子大学が実施しています。

<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/>



### 新入生全員を対象とした「ノートパソコン貸与」と情報教育

平成19年度につづき、学部1年生全員に1年間ノートパソコンを無償貸与します。その目的は、本学の学生が情報ツールを自ら構築し、使いこなし、「文理融合リベラルアーツ」や各自の専門領域に取り入れる手法を初歩から学ぶためのものです。まず、パソコンを個人のものであるとして使用すると、どのような責任が生じるか、どのようにしてソフトを取り込んでどう使用するか、情報をどう管理するかなどの知識と技術を習得します。

#### ◆貸与パソコン相談室

<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/index.html>

#### ◆平成20年度ノートパソコン貸与について

[http://www.ocha.ac.jp/topics/pc\\_2008.html](http://www.ocha.ac.jp/topics/pc_2008.html)



### 大学院と連携した学部教育

大学院への進学やそこでの教育と連携した教育プログラムを築きます。とくに理学部では、所属する学科をこえた卒業研究指導の体制をつくり、大学院における学際的領域（生命情報学など）の教育・研究へと展開できるカリキュラムを検討しています。



### 図書館に新たなコーナーが次々誕生

平成19年4月にリベラルアーツ図書コーナー、ラーニング・コモンズを、12月にはキャリアカフェを図書館に開設しました。図書館のロビーの机や椅子も一新し、図書館が学生の皆様にとって快適なコミュニケーションスペースとなるように工夫を続けています。

附属図書館HP

<http://www.lib.ocha.ac.jp/>



# 新生お茶の水女子大学

## 全学一体となった学部教育

# 新生お茶の水女子大学

## 研究プロジェクトの遂行

### お茶の水女子大学の新たな取り組み

本学の先進的教育・研究プロジェクト

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢が実現される場」となることを目標に、下記のプログラムを実施しています。

#### 国際的な研究拠点の形成

＜グローバルCOEプログラム＞

「格差センシティブな人間発達科学の創成」（平成19-23年度）

URL： <http://ocha-gaps-gcoe.com/>

#### 大学院教育プログラム

＜大学院教育改革支援プログラム＞

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」（平成19-21年度）

URL： <http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm>

#### 特別教育研究経費等

- 女性リーダー育成プログラム（平成18-21年度）
- 開発途上国の女子教育・乳幼児保育の支援（平成17-21年度）
- 国際協力人材育成（平成17-21年度）
- 幼・保の発達を見通したカリキュラム開発（平成18-21年度）
- コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応（平成18-21年度）
- 文理融合21世紀型リベラルアーツの創成（平成19-22年度）
- 女性が進出できる新しい研究分野の開拓（平成19-21年度）
- 子どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育プログラムの構築（平成19-21年度）
- 「主婦を研究の世界に呼び戻そう」（平成19-20年度）
- 「国際規格のFD戦略」（平成20年度）
- 「9月入学支援」（平成20年度）



#### 研究者・教育者支援

科学技術振興調整費「挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成」（平成19-23年度）

URL： [http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index\\_ja.html](http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index_ja.html)

#### 理科教育支援者養成プログラム

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」（平成19-20年度）

URL： <http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/rikashien/index.html>

#### 女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築

科学技術振興調整費「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」（平成18-20年）

URL： <http://ocha-cosmos.com/xoops/>

新生お茶の水女子大学

研究プロジェクトの遂行

# 大学院教育改革支援プログラム

## 日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」は、昨年度、「大学院教育改革支援プログラム」（文部科学省）に採択された、本学大学院の比較社会文化学専攻の教育プログラムです。

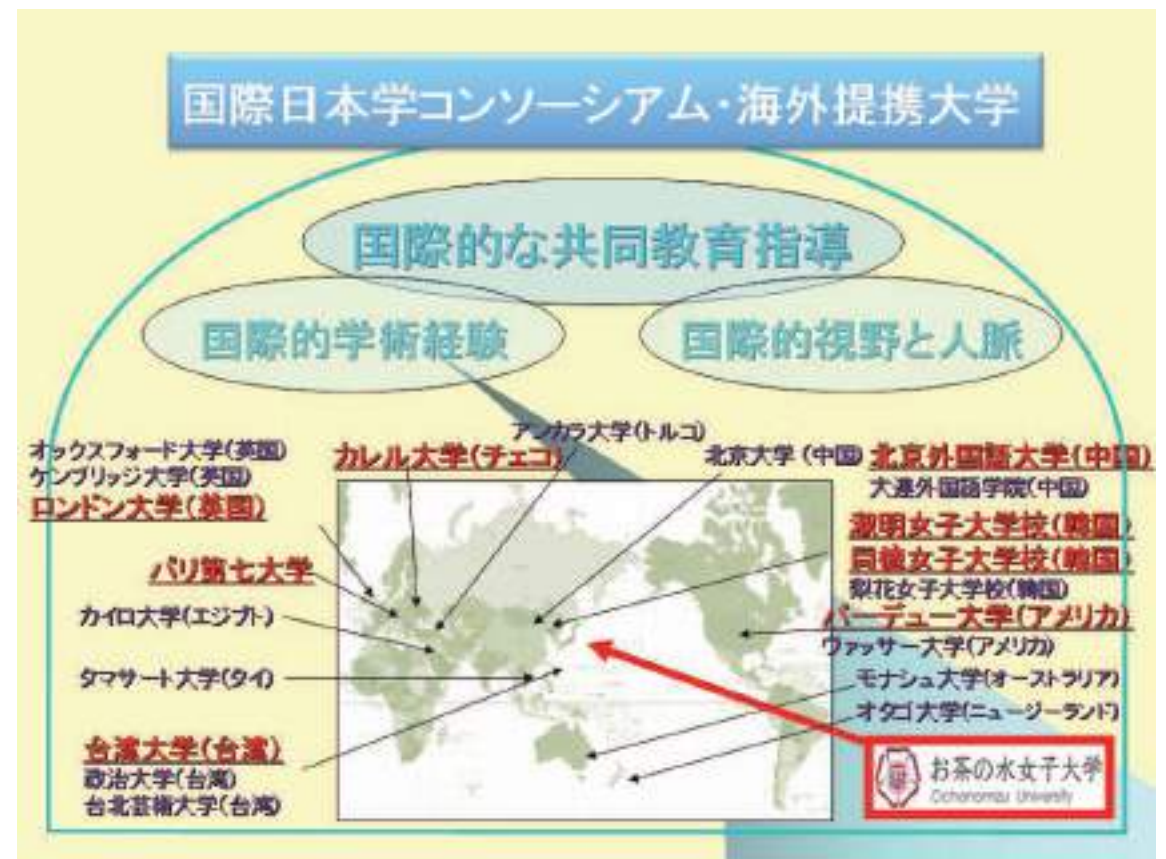


### 国際的なコミュニケーション力の育成

今日の私達が暮らしている社会は、様々な面で、急速にグローバル化しつつあります。こうした時代において、社会や文化に貢献する稔り豊かな仕事を成し遂げるためには、国際的なコミュニケーション能力が不可欠です。

数年前、人文系の研究者達と話していたとき、「日本には人文系の高度な研究成果があるのに、それが海外ではあまり知られていない」ということが話題になりました。

理系の研究分野では、数式や化学式といった一種の「普遍言語」を用いることができますが、一方、文系の研究は、全面的に「自然言語」（日本語や英語、等々）に依存しており、したがって、その研究成果を発信するにも、又、理解するにも、高度に洗煉された言語能力・プレゼンテーション能力が必要になります。それだけに、研究成果が「言葉(文化)の壁」を越えて伝わり難いという現実があるのです。



### 3つの教育プログラム

本学大学院には、人文系の高度で専門的な研究・教育基盤が整っていますが、そこで学びつつ、同時に、充分な国際的コミュニケーション能力も獲得できるようにしようというのが、この教育プログラムの基本的な目的です。このプログラムは、①「国際的な現場での教育」、②「情報伝達スキルの練磨」、③「日本文化についての理解」という、3つの柱から成っています。

まず①の「国際的な現場での教育」については、海外の提携校などで模擬授業実習を行なう「海外インターンシップ」、国際的な水準に合う学位論文執筆に向けて海外の研究者達と専門的な議論を行なう「海外アカデミック・ディスカッション」が、今年度から本格的な実施に移されます。又、既に昨年度から実施されている様々な国際教育——海外の提携校との「国際共同ゼミ」、「国際日本学コンソーシアム」、そして、学生個々の研究に必要な調査・取材を行なう「海外調査研究」——は、今年度も引き続き実施されます。こうしたプログラムの魅力は、本学で学ぶことで、居ながらにして海外留学によ

る国際経験に匹敵するものを得られるという点にあります。

②の「情報伝達スキルの練磨」としては、上記①のプログラムと連動して、既に、外国語によるプレゼンテーション能力を磨くための科目が開講されています。それに加えて、今年度からは、研究成果の電子メディアによる発信のノウハウを学ぶ実習(本学に蓄積されている国際日本学研究成果を用いて「日本学研究コーパス」を作成する実習)も本格的な実施に移され、その実習の成果は、本学のホームページ内の「Tea Pot」で公開されます。

さて、国際的な場で活動するとき(それが文化的な活動分野であれば尚更)、私達はしばしば、自らの研究分野の如何に係わらず、日本の文化について語り、紹介する役割を期待されます。グローバル社会であっても、否、そうした社会であるからこそ、文化的な出自が大切にされ、それに関心が払われる傾向があります。そうした状況を受けて、教育プログラムの第3の柱、「日本文化についての理解」が設けられました。

このプログラムの一環として、今

年度から、副専攻「日本文化論」が開設されます。これは、日本文化の多様な諸面(思想、歴史、文学、美術、服飾、舞踊、音楽、等々)についての20の科目から成る副専攻科目群で、指定の単位数を履修すると、副専攻修了証が与えられます。

### 多様な価値観の発信

今日の社会のグローバル化は、ともすれば、多様であってよいはずの諸文化を均一化し、価値観の頑なな一元化を招く危険性を秘めています。そうした中で、伝統的に非一元論的な思想に培われ、多様性を包含してきた日本の文化を理解し、それを発信することは、世界をより好い方向へと導く援けとなるでしょう。国際的コミュニケーション能力とは、単に自分個人の主張のための道具ではなく、社会を創る力であるべきだ。この教育プログラムは、そうした信念に基づいているのです。

(近藤譲 大学院人間文化創成科学研究科 基幹部門文化科学系教授)

# 大学院教育改革支援プログラム

## 日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

# 教員紹介

## 人間のこころの発達を研究

ご自身の研究や教育観などを語っていただく「教員紹介」の第3回は、人間文化創成科学研究科先端融合部門先端融合系の菅原ますみ先生にお話を伺います。

菅原先生は発達心理学を専門にしておられ、特に、人間のパーソナリティの発達に着目した研究をなされています。インタビューでは、そのおもしろさや奥深さを語っていただきました。



*Masumi Sugawara*

菅原 ますみ

人間の行動って、十人十色、いろいろなふるまい方があって、その人らしさというのが必ずあるんです。

### 先生のご専門は？

私は発達心理学を専門にしていますが、とくに、人間のパーソナリティの発達に関心をもって研究しています。人間の行動って、十人十色、いろいろなふるまい方があって、その人らしさというのが必ずあるんですね。その人らしさ、ユニークさというのは、実は、生まれたときからあるものなんです。もちろんそれは、人が成長するにしたがって変わってもいきます。そのときの最大の要因は環境です。個性と環境の出会い（マッチング）が人間に何

をもたらすのか、もっと言いますと、人間が幸せになるような個性と環境の出会いはどういうものなのか、あるいは不幸にならないような出会いとはどういうものなのか、を考えているんです。

というのは、私はお茶大に来る前は、厚生労働省技官として精神保健研究所で働いていました。家族や地域の環境とメンタルヘルスを考える職場です。私がとくに力を入れていたのは（今もいれているのですが）、子どものパーソナリティとメンタルヘル

スとの関連です。心理学では、子ども期というのは、0歳から18歳くらいまでを言うのですが、たとえば、学校に行けない、というような不応症をどうすれば防ぐことができるのか、いろいろ考えるわけです。精神疾患の発症は、環境によって大きく左右されます。人間が精神的な問題で不幸にならないようにするためにはどうすればいいのか、どうしたらそれを防げるのか、それを考えることが私の研究なんです。

人間のこころの発達ほんとに不思議で面白い。人間が好きな人にとっても向いている研究領域だと思います。

### 研究を志すきっかけは？

卒論で双子の発達過程をテーマとしてとりあげたんですね。そのとき、双子のみなさんにアンケート調査に協力してもらったのですが、そのアンケートを読むのがほんとうに興味深くって。というのは、たとえば、大人になってからの回答であるにもかかわらず、字の形や筆圧がそっくりなんです。そうすると、これはどこからきているんだろうって。発達心理学の領域は、いわば生物学的知見と社会学的知見のクロスする場所なんですね。人間には30億対ものDNAがあって、そこに遺伝子が配列されているわけですが、どれほど人類の歴史が続いたとしても、まったく同一配列の遺伝子セットを持つ人間はいないと言われていいます。人類共通の部分はとても大きいのですが、配列に個人差があるんですね。その個人差によって個性が生まれてくるんです。ところが、双子の場合、その組み合わせが限りなく同じなんです。それなのに、成長の過程で、個々のパーソナリティは変わってくるでしょう？もともと持っている遺伝子が同じで同じ家庭のなかで育つことが多いのに、個性が違ってくるのはなぜなんだろう。本当に不思議だなって思いますが、ひとりひとりが別々に体験する環境の影響力が大きいのだろうと予想しています。

修士論文では、新生児をとりあげました。これまたおもしろいことに、生まれて3〜4日目なのに、すでにその行動はとても個性豊かなんです。すごいでしょう。ずっとその子どもたちを追跡して、いま、一番年長の人たちが20代になっています。生まれつきの個性を引き継いでいる部分と、成長にしたがって変わっていく部分があるんですが、やっぱり、一番重要なのは他の人とかかわり、対人環境ですね。とくにね、親よりも、学校に行くようになってから出会う親友や友だち集団の影響がとても大きいことがわかってきています。

こうしてみると、発達心理学というのは、人の成長を追いかける学問だなあ、と思います。人間のこころの発達ほんとに不思議で奥深い。それを日々感じます。人間が好きな人にとっても向いている研究領域だと思いますよ。

### どんなキャリアを歩まれたのですか？

大学院を出たあと、ある短大の幼児教育科の助手として勤めました。いつもまわりに小さな子どもたちがいて、楽しくて、観察も出来るし一石二鳥（笑）。そのあと、厚生労働省の技官になりました。公務員なんですけど、これは研究職で研究所配属でした。ちなみに、公務員試験は受けなくていいんですよ（笑）。そのあと、お茶大に来たんです。

今はほかにNHKと協力して、メディアと子どもについて研究したりもしています。ビデオやゲーム機、PCなどのメディア環境が子どもたちの発達にどんな影響を与えるかを調査しています。幼児期・児童期・思春期というのは人間にとってとても重要な時期ですが、そのとき、どんな内容の情報がメディアから与えられるか、どのようにメディアと関わるか、やはり子どもにすくなくならず影響することが予想されます。また、大切なメディアとして忘れることができないのは、やはり本、幼い子どもだったら絵本なんです。とくに言葉の発達には活字メディアが大きく関わるようなんです。私のような研究領域ですと、たとえばメディアとの関わりのなかで子ども番組のプログラムに関わったり、子どものおもちゃや教材を開発したり、という方向に仕事の可能性が広がったりもします。

人間ってね、老人になっても変わることができるんですよ。すてきなことですよね。

私は大学院までずっと、東京都立大学（現・首都大学東京）だったんですね。ですから、お茶大に勤めたのははじめての女子大経験で、これまたとてもおもしろかったです。学生さんが女の子だけの気楽さか、みんなのびのびしていることもありますけど、もうひとつ、一つのキャンパスのなかに、小さい子どもから私より年上の学生や院生さんまで一緒にいるでしょう。自分よりずっと若い学生さんたちと一緒に、生き生きと学んでいるその人たちをみると、ほんとうに力づけられるし、よし、私もやるぞ！っていう気持ちになれますね。人間ってね、老人になっても変わることができるんですよ。すてきなことですよね。人間って生物としてほんとによくできているし、研究を通して知れば知るほど面白い。だからこそ、一人一人を大切にしたいってすごく思います。

人とコミュニケーションをとる方法って言葉だけじゃないでしょう。

### 学生時代やってよかったことは？

学生時代は、大学院もふくめて、ずっとオーケストラのサークルに入って、バイオリンを弾いてました。都立大の門を入ると、左に講義棟、右にオーケストラの部室があるんですけど、私はいつも右に行っていました（笑）。楽しかったですね。人とコミュニケーションをとる方法って、言葉だけじゃないでしょう。音の響きによっても人とかかわり、コミュニケーションをとることができるんです。なんて言うか、また研究の話になってしまいますけど、ほんとにムダなことは一つもないと思います。

それからね、私は旅行が好きなんですけど、とくにリゾートに興味があるんですよ。人がリラックスする環境って、どういうものかって。あと、私、カウチ・トラベルコーディネーターなんです。旅行に行くのはどういう人か、それにあわせて、旅行をセットするんです。パッチャルですけど。旅行に行く人たちに、よって、気持ちのいい環境って違うでしょう？あ、また研究の話になっちゃった（笑）。

### お茶大生にひとことお願いします

とにかく、今みなさんがいる場所で、そこにいる人やそこで起こるできごとと一緒に懸命関わってみて下さい。人間は小さな子どもでも自分の環境を変えていく力があります。すぐには思い通りにいかないこともたくさんあると思いますが、ひたむきな努力は必ずよい方向に環境を変えていくはず。みなさんも私も幸運なことに、伝統あるお茶大が今の“自分たちの場所”です。お茶大が今よりもっと居心地のいい場所になるように、一緒にがんばりましょう。

ひたむきな努力は必ずよい方向に環境を変えていくはずですよ。

# 教員紹介

## 人間のこころの発達を研究

# 平成19年度卒業式

卒業証書・学位記授与式によせて 学長告辞



本学の学部で4年間勉学に励まれて、今日、ここにめでたく学士の課程を修了されたみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。今日は朝から雨が激しく降っていましたが、ちょうど今、まさにみなさまの前途を祝うように雨も止み、静かな卒業式を迎えることができました。517名の卒業生の新たな出発に際して、ほころび始めた中庭の桜と共に、この喜びを分かち合いたいと思います。

また、みなさんをここまで支えてこられたご家族をはじめ、来賓の方々、本学に暖かいご支援をお寄せ下さいます多くの方々に、深くお礼を申し上げます。

みなさんは4年前にこの微音堂で入学式を迎えたことを覚えておられるでしょう。その時、本田和子前学長がみなさんの入学をお祝いして告辞を述べられたことと思います。

本学は明治8年、1875年に東京女子師範学校として創立され、本年は創立以来133年目となります。本田前学長は本学始まって以来の最初の女性の学長です。日本で最初にできた、女性のための高等教育機関であるお茶の水女子大学であっても、女性が学長になるには、126年という年月が必要でした。

今日は卒業式のおめでたい日であると同時に新しいスタートの日ですが、本学の歴史や、本学が国内だけでなく海外においてどういう位置づけにあるかということについて、お話をさせていただきたいと思っています。

「夢の実現に向けて真摯に学ぶ意欲のあるすべての女性のために存在する」という、本田前学長が掲げた理念に加え、私は本学の教育の目的について、「21世紀を生きるリーダーシップを身につける」ことだと、度々申し上げてきました。このように女性のリーダーを育成する大学の学長が男性であるのでは、リーダーシップを育成することを教育の目的とする大学の存在そのものが疑われます。本学の学長が女性であることの必要性は、ここにあります。

本学は創立以来、優れた女性を数多く世に送り出してきました。さかのぼれば、日本で最初の女医、あるいは最初の理学博士など枚挙に暇がないほどです。こういった歴史の詳細はお話しませんが、本学の歴史が日本国内だけでなく、海を越えた物語に繋がっていることを、つい最近、知ることができました。



現在、本学は世界の33の大学と大学間協定を結び、学生の交換留学や共同研究などを行っています。そして先月2月22日に、本学最初の海外拠点をタイの首都バンコクに開設することができました。

お茶の水女子大学バンコク・オフィスは、日本学術振興会のバンコク研究連絡センターの中にあります。このオフィスを拠点にして、東南アジア諸国への情報発信や、留学生の募集だけでなく、東南アジア諸国における本学卒業生、あるいは大学院修了生のフォローアップやネットワークの強化、新たな国際協力と国際共同研究の企画立案、女子教育、女性研究者協力の充実などを進めていくつもりです。

本学とタイの関係は古く、記録によると海外から本学への最初の留学生はシャム——現在のタイの4名の方です。今から100年以上前の明治36年のことです。お一人は途中でご病気になり帰国されたそうですが、残りの3名は本学の前身である東京女子高等師範学校の寄宿舎に入って4年間勉学に励まれ、卒業後、タイに帰国されたということがわかっています。

また、東京女子大学の学長も務めた本学の卒業生である安井てつさんは、タイ王妃のお招きにより皇室女学校の開校に尽力されています。

これらの事実を知った私は、シャムからの留学生が帰国後どのような道を歩まれたのか、安井てつさんが創立された学校は現在どうなっているのか、知りたいと思っていました。

そこで、バンコク・オフィス開設にあたって手がかりを探したところ、安井てつさんが創られた学校が今も存在していることがわかり、幸いにもその学校の理事長と校長先生にお会いすることができたのです。

(次ページへ)

# 平成19年度卒業式

卒業証書・学位記授与式によせて 学長告辞

# 平成19年度卒業式

## 卒業証書・学位記授与式によせて 学長告辞

(前ページより)

安井てつさんが三年間をかけて創立にご尽力された学校は、王宮のすぐ近くにあるラーチニー女学院という大変由緒ある学校でした。とても綺麗なキャンパスで、驚いたことに敷地内に幼稚園から高等学校までがあり、本学とそっくりなつくりです。学生一人ひとりに丁寧な教育をし、卒業生の多くは名門校に進むという点でも本学と似通っているようでした。

校長先生と理事長—どちらも女性です—に、シャムから来た本学最初の留学生のことについてお尋ねしたところ、学校の図書館にご案内いただきました。そこで一冊の本を紹介されたのです。その本は4名の留学生のうちのお一人、ジョン（正式には、クンジン・カジョン・パラトラチャ）さんという方のご遺族が追悼集として書かれた伝記のようで、寄宿舎での生活や日本画を描いておられたこと、三週間の船旅で東京へ来たこと、雪を初めて見たことなどが書かれています。本学にも残されている4名の留学生のお写真のほか、日本で撮られたたくさんのお写真も載っていました。そして、本学を卒業したジョンさんは、ラーチニー女学院で教鞭をとられたこともわかりました。

このように、本学への留学生がご自分の国に帰られて、女子教育の発展のために尽くされ、また国と国を結ぶ橋になられたことには、大変感銘を受けました。

そして現在でも、本学を卒業後、東南アジア諸国で働いている方々は大勢いらっしゃいます。バンコク・オフィス開設に際しては、タイ国内は言うに及ばず、国境を越えてラオスやベトナムからも沢山の卒業生が駆けつけてくれました。これらの先輩方のように、みなさんも世界にはばたくお茶大生として活躍していただきたいと思います。

さて、みなさんが入学されたときに、国立大学は国立大学法人になりました。この4年間で、国立大学はずいぶん変わってきています。

その反面、変わっていないこともたくさんあります。その一つは、女性学長の数です。

現在86の国立大学がありますが、学長が女性である国立大学は本学のみです。一方アメリカでアイビーリーグ校と呼ばれている大学の半数は現在女性の学長ですし、ハーバード大学、MITをはじめ、著名な大学では次々と女性の学長が誕生しています。このことと比べますと、日本はまだまだ意思決定の場で女性が本当の意味で実力を発揮できる状況には至っていないと思います。女子大学だから女性の学長というのではなく、共学の大学にも女性の学長が増えていくことを望みます。

では女性の副学長がいる大学はいくつあるのでしょうか？

本学に2人、東京学芸大学に1人、静岡大学に1人、宮崎大学に1人。現在は合計4校に5名の女性副学長がいらっしゃいます。

先に申し上げた5名の女性副学長のうち、4名は本学の卒業生です。これは本学の女性リーダー育成という目的が実を結んでいる証のひとつであるといえるでしょう。

みなさんも本学で勉学に励まれた4年間ですでに感覚として気づいていることと思いますが、女性だけで切磋琢磨できる環境を体験することによって、のびのびと自分の可能性を伸ばすことができます。こうした環境で育った人は、男女が同席する場においても、物怖じすることなく発言することができます。



本学で身に付けた生き方は、社会に出た後、もしくは進学後、必ずいつか芽が出ます。ですから、この4年間でみなさんが伸ばしてきたご自分の可能性を大切にし、開花させていっていただきたいと思います。

現在世界には女性が大統領や首相である国もたくさんあります。そのような状況であるからこそ、本学は日本の女性教育の拠点というだけでなく、世界的な女性教育の拠点の一つとして今後も存在し続けたいと思っています。

これからの大学は、18歳の人たちだけが入るところではなくなるというのが私の考えです。いつでも学びたいときに学びたい人が来て学べる大学、そういう大学であってほしいと思っておりますし、大学院においてもその思いは同様で、すでに本学の大学院、特に博士課程は再度大学への入学を望む社会人への門戸を広く開いています。

みなさんがこれから社会に出て、ふたたび大学で学びたい、いままで学んできたことではない分野を学びたいと思ったときには、いつでも大学院にお迎えします。

また、本学には桜蔭会という同窓会があります。私自身も大学を卒業後、いろいろな場面で桜蔭会とご縁によって助けられることがありました。本学の卒業生は、国内は言うまでもなく、世界中に広がっています。もしもみなさんが困ったとき、あるいは困らないときでも、どうぞ積極的に卒業生のネットワークの中にお入りください。

昨年からはホームカミングデイも行っております。本学を巣立たれた後も、是非母校を思い出していただき、先輩や後輩達とのつながりを続けていっていただきたいと思います。

みなさまがたの前途に幸いが多くありますように、そして是非ご自分の手でその幸いをつかみとっていただきたいと思います。

これをもちまして、わたくしのお祝いの言葉とさせていただきます。 (了)

# 平成19年度卒業式

## 卒業証書・学位記授与式によせて 学長告辞

## キャンパス点描

### 女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム開催



平成20年2月13日、徽音堂にて「女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成」プログラムを核とし、「女子中高生理系進路選択支援事業」、日本学術振興会特別研究員RPD(Restart Postdoctoral Fellowship)制度について、関連する機関の情報交換と相互交流を通して、長期的・多元的視野のもとに女性の活躍を促す契機となることを目的として文部科学省と本学が主催したものです。

当日は文部科学省 科学技術・学術政策局長 森口泰孝氏と内閣府 男女共同参画局長 板東久美子氏にご挨拶をいただきました。まず「女子中高生の理系進路選択の取組み」について9機関より現状が紹介され、引き続き日本学術振興会理事長 小野元之氏より「RPDの取組み」についての説明と実際に採用された方の報告が行われました。

さらにポスターセッションと昼食をはさみ、午後は「女性研究者支援の取組み」として本学の郷通子学長（総合科学技術会議議員）の基調講演にはじまり、「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されている20機関の取組状況が報告されました。引き続き、取組発表者全員が壇上に上がり、参加者も加わって活発なディスカッションが行われました。

最後に、科学技術振興機構理事長 北澤宏一氏より今後の期待、コメントをいただき、合同シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じました。

参加者からは「このようなシンポジウムはもっと開催されるべきだ」「男性にも支援を!」「定着するまで事業を拡張して欲しい」というご意見が寄せられました。このシンポジウムを通して、女性研究者に限らず全体的な労働環境の整備こそが急務であり、そのことが男女共同参画社会実現への重要な要素であるように感じました。限られた時間の中ではありましたが、様々な取組みの情報共有と相互交流の稀有な機会になったと思われます。そして、このシンポジウムが新たなネットワーク構築のきっかけになったことは、大変よろこばしいことだと考えます。

## お茶大初の海外拠点

お茶の水女子大学バンコク・オフィスを開設



お茶の水女子大学では、国際戦略に基づき、1) 時代と社会の要請に応え得る優れた女性指導者・研究者の育成、2) 国際社会で活躍できる人材の輩出、3) 開発途上国の女子教育・女性研究者支援の充実、4) アジア諸国より女性リーダーをめざす優れた留学生の受入、5) アジア諸国との共同研究等の推進を達成するため、タイ・バンコクに初の海外拠点を設置しました。

同オフィスは、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）と海外活動展開に関する協力支援の委託契約を締結し、同会のバンコク研究連絡センターの一部を共用するものです。平成20年2月22日に、郷学長が現地を訪問し、開所式が行われました。

開所式後に行われた記念レセプションでは、協定校であるタマサート大学、アジア工科大学の学長をはじめとする関係者、JSPSバンコク研究連絡センター、国際交流基金バンコク事務所、ユネスコ・バンコクなどの関係者、及び国際社会で活躍している元留学生を含むタイ、在ラオス、在ベトナムの卒業生が、一堂に会し、今後、オフィスを活用し、より強固な国際連携の構築について熱い期待が寄せられました。



## キャンパス点描

# イベントカレンダー

## 2008年度



|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 4月7日  | 入学式<br>新入生オリエンテーション（9～11日）                     |
| 4月8日  | 入学式（附属小・中・高）<br>第1回TOEIC試験                     |
| 4月9日  | 附属幼稚園入園式                                       |
| 4月10日 | 新入生セミナー（～11日）                                  |
| 4月14日 | 前学期授業開始                                        |
| 4月26日 | 大学院オープンキャンパス                                   |
| 5月19日 | 名誉教授懇談会                                        |
| 5月31日 | 開学記念日<br>ホームカミングデイ                             |
| 6月9日  | 理学部編入学試験願書受付（～12日）                             |
| 7月2日  | 理学部編入学試験（～3日）                                  |
| 7月10日 | 理学部編入学試験合格発表                                   |
| 7月20日 | オープンキャンパス（～21日）                                |
| 7月22日 | 博士前期課程8月入試験願書受付（～24日）                          |
| 7月23日 | 前学期末試験（～29日）<br>補講日（～8月1日）                     |
| 8月2日  | 夏期休業始                                          |
| 8月5日  | 博士後期課程9月入試験願書受付（～7日）                           |
| 8月13日 | 夏季一斉休業（～15日）                                   |
| 8月21日 | 博士前期課程8月入試（～22日）                               |
| 9月1日  | 博士前期課程合格発表                                     |
| 9月4日  | 博士後期課程9月入試（～5日）                                |
| 9月7日  | 夏期休業終                                          |
| 9月8日  | 前学期末試験・補講日（～12日）                               |
| 9月9日  | AO入試験願書受付（～11日）                                |
| 9月12日 | 博士後期課程合格発表                                     |
| 9月13日 | 夏期休業始                                          |
| 9月20日 | 附属小学校130周年記念式典                                 |
| 9月30日 | 9月卒業式<br>文教育学部・生活科学部編入学試験願書受付（～10月2日）<br>夏期休業終 |



|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月1日  | 10月入学式<br>後学期授業開始                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 10月15日 | 文教育学部・生活科学部編入学1次試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 10月24日 | AO入試（～25日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 10月29日 | AO入試合格発表                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 11月1日  | 推薦入学願書受付・帰国子女入試験書受付（～6日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 11月5日  | 文教育学部・生活科学部編入学2次試験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 11月8日  | 德音祭（～9日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 11月11日 | 奨学金授与式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 11月13日 | 文教育学部・生活科学部編入学試験合格発表                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 11月21日 | 永年勤続表彰式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 11月29日 | 創立記念日<br>文教育学部推薦入学・帰国子女入試（1日目）<br>理学部・生活科学部推薦入学・帰国子女入試<br>文教育学部推薦入学・帰国子女入試（2日目）<br>推薦入学・帰国子女入試合格発表<br>12月4日 私費外国人入試験書受付（～22日）<br>12月24日 冬期休業始<br>12月25日 博士前期課程2月入試験書受付（～1月6日）<br>1月7日 冬期休業終<br>1月17日 大学入試センター試験（～18日）<br>1月19日 博士後期課程3月入試験書受付（～22日）<br>1月24日 大学入試センター試験（追試）（～25日）<br>1月26日 学部願書受付（～2月4日）<br>2月3日 後学期末試験・補講日（～4日、6日～10日）<br>2月5日 博士前期課程2月入試（～6日）<br>2月12日 第2回TOEIC試験<br>2月13日 博士前期課程合格発表<br>2月25日 学部入試（前期）（～26日）<br>3月4日 博士後期課程3月入試（～6日）<br>3月10日 学部入試（前期）合格発表<br>3月11日 博士後期課程合格発表<br>全学送別会<br>3月12日 学部入試（後期）<br>3月13日 附属幼稚園卒園式<br>3月16日 附属小学校卒業式<br>3月17日 附属中学校卒業式<br>3月18日 附属高等学校卒業式<br>3月19日 永年勤続表彰式<br>3月20日 学部入試（後期）合格発表<br>3月23日 卒業式 |

# 研究表彰・叙勲 受賞者一覧

## (1) 学内者

①鹿島美術財団賞  
比較日本学研究センター ロール・シュワルツ=アレナレス  
研究主題：「『応徳涅槃図』試論－陰陽道と星辰信仰をめぐる二重のイメージ」

②平成19年度日本心理学会優秀論文賞  
池田まさみ特任講師、石口彰教授  
題名：「Effects of surface pre-presentation on symmetry detection on a 3-D bumpy surface」

③第11回日本比較文学会賞  
鈴木禎宏准教授  
著書『バーナード・リーチの生涯と芸術－「東と西の結婚」のヴィジョン－』

④国際科学技術財団研究助成に採択  
北島佐知子准教授  
研究テーマ「散逸を伴う量子情報通信路の研究」

⑤2007年度 柿内賢信記念賞  
白楽ロックビル(林正男)教授  
研究課題名：「バイオ政治学の構築と発展」

⑥平成19年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）  
佐藤道幸教頭(附属中学校副校長)

⑦平成19年度文部科学大臣優秀教員表彰  
横山善実教諭(附属小学校)

## (2) 在学生

①第2回日本語教育学会林大記念論文賞  
大学院博士後期課程 原田三千代さん  
「中級学習者の作文推敲課程に与えるピア・レスポンスの影響－教師添削とその比較－」

②「CHI2007」佳作  
大学院数理・情報科学専攻 辻田 眸さん  
SyncDecor: Appliances for Sharing Mutual Awareness between Lovers Separated by Distance

③優秀論文賞及びヤングリサーチャー賞（シンポジウム「DICO-MO2007」）  
大学院数理・情報科学専攻 千島望さん  
題名：「VPN複数経路接続時におけるiSCSIストレージアクセスの特性解析」

④情報処理推進機構「未踏ソフトウェア創造事業」に採択  
大学院理学専攻 松原靖子さん  
プロジェクト名：「働く女性のための『家事分担支援ホワイトボード』システムの開発」

⑤第14回日本未病システム学会学術総会「一般演題研究論文」優秀論文賞  
大学院ライフサイエンス専攻 才田恵美さん  
演題名：「シソの抗酸化作用に関する検討」

⑥第三回「平塚らいてう賞」奨励賞  
大学院人間発達学専攻 齋藤慶子さん

⑦日本自律神経学会・基礎部門優秀論文賞  
大学院ライフサイエンス専攻 中井（花田）智子さん  
論文名：「ノルアドレナリンに対するラット卵巣細動脈経と卵巣血流反応」

⑧キックマン・アメリカ進出50周年記念学生懸賞論文 優秀賞  
生活学部食物栄養学科 菅原歩美さん  
論文名：「食を通してみる日米関係－これまでの歩みと今後の展望－」

大学院比較社会文化学専攻 板橋晶子さん  
論文名：「戦後日本における『理想的家族』の原型－第二次大戦期アメリカにおける『豊かさ』と女性の役割」

⑨宇宙航空研究開発機構「第5回 航空機による学生無重力実験コンテスト」採択  
本研究チーム（理学部4年堀友香さん代表）  
実験テーマ：「ハエは重力を感じて飛んでいるのか!？」

⑩スミセイ女性研究者支援採択  
大学院国際日本学専攻 東海林亜矢子  
研究課題名：「場からみる日本古代王権と后」

## (3) 本学出身者

①文部科学大臣表彰 科学技術賞(若手科学者賞)  
理学部化学科卒業 佐藤寛子さん(現大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系准教授)  
「情報学と化学を融合した化学情報学の開拓と実践的応用の研究」

②第3回河上肇賞 奨励賞  
大学院博士後期課程修了 丹野さくらさん(現明治学院大非常勤講師) 受賞作品：「真珠採りの詩、高群逸枝の夢」

③第22回女性史青山なを賞  
大学院人文科学研究科修士課程修了 柳谷慶子さん(現聖和学園短期大学教授)  
受賞作品：『近世の女性相続と介護』

④文藝雑誌『文藝界』『文藝界新人賞』  
文教育学部地理学科卒業 楊逸（ヤン・イー）さん  
受賞作品：「ワンちゃん」

## (4) 平成19年度秋の叙勲

〔教育研究功労関係〕  
本田和子(前本学学長) 瑞宝重光章  
市川 孝(本学名誉教授) 瑞宝中勲章

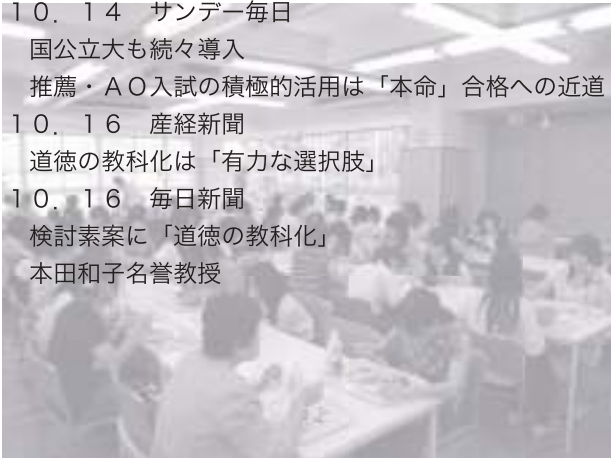


# メディア報道記録

## 2007年度

- ー平成19年ー
4. 15 日経新聞  
全国高校学力テスト  
「教員の努力が奏功」 耳塚寛明教授
4. 20 日刊工業新聞  
全学で「9ー5時」勤務体制  
来年度末までに研究業績の時間配慮
4. 25 朝日新聞  
「ひきょう者になるな」の思い込め  
「心に太陽を 唇に歌を」  
「国家の品格」藤原さん児童書 藤原正彦教授
4. 27 東京新聞  
発達障害児の保育を考える  
「土曜保育フォーラム 発達障害の理解を深める  
(実践編)」
4. 28 産経新聞  
「昭和の日」を語る 藤原正彦教授
5. 1 読売新聞  
糖尿病患者の喫煙腎症リスク2倍に  
斎藤和美研究員、曽根博仁准教授
5. 3 中日新聞  
中日文化賞 記念鼎談 「二十一世紀、目指すべき文化  
とは」 郷通子学長
5. 7 毎日新聞  
愛したいー子育て相談ー 菅原ますみ教授
5. 18 産経新聞  
「過去問」再利用へ 66大学、来春入試から
5. 29 読売新聞・6. 15 毎日新聞  
善玉コレステロール増加へ 「週2時間以上」運動を  
児玉暁研究員、曽根博仁准教授
5. 31 産経新聞  
「政策を問う」 子育て支援 労使取り組みの促進策を  
武石恵美子さん・卒業生
6. 3 読売ウィークリー  
親1万人に聞いた 東大より入れたい大学  
「娘」の場合 お茶、慶大に人気
6. 7 朝日新聞  
サンゴ再生へ 命の粒  
服田昌之准教授
6. 16 日経新聞  
優れた研究活動に資金  
グローバルCOEプログラム採択
6. 30 読売新聞  
グローバルCOEに28大学  
国際的に優れた研究拠点 国が支援
7. 1 プレジデント ファミリー  
お茶の水女子大学教授陣が説く！  
わが子を伸ばす親の鉄則ー7  
内田伸子教授、室伏きみ子教授、土屋賢二教授  
辰巳渚さん・卒業生、藤原美子さん・卒業生

7. 2 朝日新聞  
オープンキャンパスの盛況度  
お茶の水女子大学4位
7. 9 朝日新聞  
彬子さまが研究発表
7. 10 北海道新聞  
女性科学者の会 塩満さんに功労賞  
塩満典子学長特別補佐
7. 15 サンデー毎日  
大学ブランド力
7. 15 朝日新聞  
日本で校歌が歌われたのは？  
ー1878年、お茶の水女子大学の前身です
8. 3 朝日新聞  
キトラ作文コンクール 朝日中学生ウィークリー賞  
大沼菜摘さん・附属中学校
8. 6 日経新聞  
「キャリアの軌跡」 新しさ追求、人のまねはしない  
干場弓子さん・卒業生
8. 6 産経新聞  
大学が中高生対象にサマースクール  
増やせ！理系女子 森義仁准教授
9. 8 毎日新聞  
健康インフォメーション  
第1回「食育シンポジウムと展示会」
10. 2 朝日新聞  
私の視点 調理実習「サスティナブル」の発想で  
馬場由子・附属小学校教諭
10. 3 読売新聞  
生協法改正シンポジウム 暮らし支援 充実期待  
御船美智子教授
10. 6、7 朝日新聞  
国立大の業務8校「要改善」 文科省、昨年度評価  
お茶の水女子大学は「特筆すべき進行状況」と高い評価
10. 10 読売新聞・10. 14 毎日新聞  
女子高校生のためのサイエンスフェスティバル開催
10. 13 朝日新聞  
ジェンダー研究のフロンティア、シンポジウム  
「ポリティクスの分水嶺」
10. 13 日経新聞  
新聞週間特集 識者に聞く  
「授業で記事の読み比べ」 篠塚英子教授
10. 14 サンデー毎日  
国公立大も続々導入  
推薦・AO入試の積極的活用は「本命」合格への近道！
10. 16 産経新聞  
道徳の教科化は「有力な選択肢」
10. 16 毎日新聞  
検討素案に「道徳の教科化」  
本田和子名誉教授



10. 20 朝日新聞  
ダンサー孤独な健康管理 バレエ団少ない予算・専門医も  
不足 水村真由美准教授
10. 21 朝日新聞  
元気のひけつ 運動して「善玉」を増やそう  
曽根博仁准教授
10. 21 日経新聞  
「家族会議」 妻が娘連れて頻繁に買い物  
牧野カツコ名誉教授、石井クンツ昌子教授
10. 24 読売新聞  
学内保育、研究支援スタッフ・・・  
女性科学者 サポート続々
10. 24 読売新聞  
第57回全国小中学校作文コンクール  
都教育委員会賞 川島里佳子さん・附属中学校
10. 24 東京新聞  
「私とNIE」 決める、選ぶのヒントに  
田中京子附属高等学校教諭
10. 25 毎日新聞 「都道府県別の差無視はできない」
10. 25 日経新聞 「目的特化すべきだ」
10. 25 産経新聞 「必要な施策など提示を」  
全国学力・学習状況調査に関して 耳塚寛明教授
10. 26 読売新聞  
「教育ルネサンス」 「社会科」を問う  
歴史劇場作り「市民」育てる
11. 5 朝日新聞  
AO入試の今(上) 点数よりも人物
11. 3 産経新聞  
秋の叙勲 瑞宝重光章 本田和子名誉教授  
瑞宝中勲章 市川孝名誉教授
11. 5 日経新聞  
「こころの玉手箱」 貧しさにめげぬ姿に心打たれ  
黒田玲子さん・卒業生
11. 10 静岡新聞  
女子大生らと意見交換 対話集会で上川少子化担当相  
お茶の水女子大学にて「第1回オープン！子ども・家庭大  
臣室」
11. 11 読売新聞  
和算の大家 関孝和没後300年  
庶民も愛した数字 真島秀行教授
11. 17 読売新聞  
続テストを生かす(5)  
「国の分析では課題見えず」 耳塚寛明教授
11. 18 サンデー毎日  
独立行政法人化で私立化する国立大  
お茶大、岡山、広島で奨学金制度導入
11. 20 日刊工業新聞  
糖鎖機能解明で公開シンポ
11. 20 産経新聞  
“猛妻”との生活に共感 土屋賢二教授

11. 20 毎日新聞  
堂々 食卓の主役 小西雅子さん・卒業生
11. 21～ 読売新聞  
「時代の証言者」 藤原正彦教授
12. 7 読売新聞  
文学界新人賞を受賞  
「純粋な日本語で書いてみたい」 楊逸さん・卒業生
12. 8 朝日新聞  
お茶の水4施設 登録有形文化財に
12. 11 産経新聞  
「わたしの失敗」 「品格」看板が重圧 藤原正彦教授

ー平成20年ー

1. 4 朝日新聞  
理系白書シンポジウム  
「前例主義を超えて」 塩満典子学長特別補佐
1. 30 産経新聞・2. 6 読売新聞  
女性研究者支援モデル育成事業等シンポジウムを開催
2. 2 静岡新聞  
「本音インタビュー」仕事と生活調和の現実  
勤務体系の整備が重要 郷通子学長
2. 4 朝日新聞  
「無重力での発見」学生競う  
「動物と重力の関係を研究したい」 堀友香さん・理学  
部生物学科
2. 17 読売ウィークリー  
56大学「就職の実力」
2. 19 読売新聞  
社会人学生「1.5倍増」案 郷通子学長  
Nature (online 20 February 2008号)  
「お茶大モデル(勤務時間9時ー5時など)」や2月に  
開催された「女性研究者支援モデル育成事業等合同シン  
ポジウム」について紹介
3. 3 読売新聞  
「支えあって子育て」自我目覚める反抗期  
つらい時まず相談 高濱裕子教授



# メディア報道記録

## 2007年度

お茶の水女子大学学報 第216号

▽発行 日： 2008年4月7日

▽発行 行： 国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: [info@cc.ocha.ac.jp](mailto:info@cc.ocha.ac.jp)

URL: <http://www.ocha.ac.jp/>